

平成27年度 幼児教育学科

自己点検・評価報告書

目 次

	ページ
概 要	1
指針Ⅰ 教育	
1. 教務	4
2. 保育実習・教育実習	8
① 保育実習Ⅰ－1	8
② 保育実習Ⅰ－2	9
③ 保育実習指導Ⅰ	10
④ 保育実習Ⅱ・保育実習指導Ⅱ	11
⑤ 保育実習Ⅲ・保育実習指導Ⅲ	12
⑥ 教育実習Ⅰ	13
⑦ 教育実習Ⅱ	14
⑧ 教育実習指導	15
⑨ 保育実習連絡協議会	16
⑩ 自主実習	17
3. 総合演習	18
4. 保育・教職実践演習	20
指針Ⅱ 学生支援	
1. 学生指導	21
2. 進路支援	22
指針Ⅲ 地域貢献	
1. ボランティア・地域活動	24
2. 幼児教育センター活動	26

平成28年3月

富山短期大学 幼児教育学科

1 概要

担当 [学科長 赤川]

1. 平成 27 年度自己点検・評価項目およびメンバー

自己点検・評価項目	メンバー
I 教育	
1 教務	
2 保育実習・教育実習	赤川 雅和 宮田 徹 石動 瑞代
3 総合演習	望月 健一 飯田 聰 橋本 麻里
4 保育・教職実践演習	中山 里美 難波 純子 山川 賀世子
II 学生支援	梅本 恵
1 学生指導	
2 進路支援	
III 地域貢献	
1 ボランティア・地域活動	
2 幼児教育センター活動	
3 研究・社会的活動・所属団体研修等	
IV 入学者確保	
1 学生募集・入学試験	
2 広報活動	
V マネージメント体制	
1 予算	

2. 平成 27 年度自己点検・評価の概要

本学科では平成 12 年度から毎年、活動全般について、学科教員全員による自己点検・評価を実施している。本報告書は、それぞれの項目について科内分掌上の担当者を中心に整理した実績と問題点を科内会議で協議し、現状を総括するとともに、次年度に向けての課題とさらなる改善・向上のための行動について検討した結果を取りまとめたものである。

平成 27 年度からは、アクション・プランの点検を踏まえ、その項立てに基づいて報告することとした。

その概要は、次に示すとおりである。

I 教育

(1) 教務

平成 27 年度は、全学的には、国の大学教育再生加速プログラム (AP) に採択を受けて、平成 24 年度からの教育改革の動きが一段と本格化した年であった。本学科においても、Web シラバスを活用した「授業アンケート」を本格的にスタートさせ、「授業改善レポート」に取り組む体制が完成した。今後も、Web シラバスの総合的な活用に向けて学生を指導するとともに、その有効な活用について教員間の理解を深め、学修成果の向上につながるように授業内容・方法の改善を図っていく必要がある。

大幅な学生数の増加に対応するために、講義室の机・椅子の大幅な補充を行った。また、書画カメラや「実践的社会力向上事業」による掃除機の購入などを通して学習環境整備を図った。教育研究活性化設備整備事業によるプレゼンテーションスタジオの整備は、「親子活動」や「オペレッタ」など学修成果の発表の場として有効であった。今後も、ハード・ソフト両面での環境向上に一層の努力が必要である。

(2) 保育実習・教育実習

実習指導科目（保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱ・Ⅲ、教育実習Ⅰ、教育実習Ⅱ）間の授業内容調整と担当者の協働により、事前・事後指導の充実を図った。今後も、科目間の有機的連携が重要課題である。また、事前報告書様式の見直しや実習評価基準の検討を行った。個別的な配慮が求められる実習学生については、実習先との連絡調整や学内の情報共有・連携の一層の充実・強化が必要である。

(3) 保育・教職実践演習

学生の主体的な参加を促すために、具体的な課題設定や日程の配慮等を行ったが、さらなる工夫が必要である。レポート中心の評価方法についても検討を続ける必要がある。履修カルテとの関連付けをより明確化するなど、さらなる活用を検討していきたい。

Ⅱ 学生支援

(1) 学生指導

個別指導を必要とする学生や指導に費やす時間の増加に伴い、より一層の教員間の連携・情報共有が必要である。平成 27 年度は、中退者の防止対策について検討するとともに、GPAを基準とした実習参加、個別指導について申し合わせた。

(2) 進路支援

平成 27 年度卒業生（83 名）の就職決定率は 100%（就職希望者 83 名）、専門職就職率は 99%（専門職就職 82 名）であった。保育者確保のため、求人の早期化など、年々、保育所・幼稚園の求人活動が活発になってきている。このため、学生の受験先も分散化している。求人情報のすみやかな徹底など進路指導の充実と関係機関との情報交換、連携の強化が必要である。公務員（市町村保育士）採用試験には 18 名が合格した。筆記試験（教養・専門）や作文・面接試験対策の充実・強化を図るとともに、学習意欲や習慣を持たせる環境や集団づくりの工夫が必要である。

Ⅲ 地域貢献

(1) ボランティア・地域活動

学生が意欲的に参加した活動は「幼児と保護者・小学生・障害者」と触れ合う企画が中心であった。学科での学びを活かしたり、確認できたりすることが参加意欲につながっている。

また、イベント参加や親子活動など、地域に働きかける自主活動を「授業」の一環として取り組むことが、地域活動へと発展させるきっかけとなっており、今後もこの方向を推進したい。

(2) 幼児教育センター活動

県内外の幼稚園・保育所等の関係者と保育者養成校の教員、学生が一堂に会し、研究と実践を交流・推進する場として、第 43 回幼児教育研究会を「保育内容を見つめ直すー保育内容を支える保育者の専門性ー」を研究主題として開催した。

平成 22 年度からスタートした「保育内容を見直す」に基づく一連の研究が終了した。参加者アンケート調査を実施し、現代的な新たな課題を設定し、研究会の内容構成も見直し、次年度以降に向けることとした。今後とも、地域と密接につながった研究や社会貢献の取組をより充実させることが求められる。

(3) 研究・社会的活動・所属団体研修等

平成 27 年度は、学科教員の共同研究として取り組んだ、「保育者養成教育における感性と表現ー教員の協働による総合的授業の実践ー」についての研究発表をおこなった。

(富山第一銀行奨学財団助成研究) 今後も、教員個人の研究活動や社会的活動に加えて、教員間の協働を推進することが必要である。

1. 現状**(1) 平成 27 年度の課題への取り組みについて****① Web シラバスの運用**

全学的に Web シラバスが導入されて 2 年目にはいるが、今年度は、4 月に Web シラバスの点検を試行的に実施した。7 月には、Web シラバスと連動したかたちでの「授業アンケート」が本格的にスタートした。専任教員が担当するすべての授業科目において学生に対して説明を行い、回答を呼びかけた。また、全教員が「授業アンケート」の結果を踏まえて「授業改善レポート」の作成に取り組んだ。

学科の取り組みとしては、Web シラバス授業科目体系図の見直しを行った。「臨床心理学Ⅰ・Ⅱ」から「保育理解と教育相談Ⅰ・Ⅱ」への科目名称変更（平成 28 年度入学生より適用）、「基礎演習」「児童社会」の設置（平成 27 年度入学生より適用）、「保育内容（言葉Ⅰ・Ⅱ）」「国際情勢」の開講時期変更に合わせて修正を行った。また、学科専任教員全員が担当する「総合演習」の Web シラバス枝番の書式・運用方法について検討した。

② 学生への情報提供と履修内容に関する意識の向上

履修登録時や履修カルテ作成などの機会を有効に利用し、学生の履修内容への意識を高め、自ら学ぶ姿勢を醸成していくことに取り組んだ。少しずつ意識の高まりは見られるものの、一部の学生に履修登録のミスが見られた。また、履修カルテの記入が不十分なものも散見されるなど、さらなる取り組みが必要である。

③ 学習環境の保障

今年度は、1 年次生として 110 名という大人数の学生を受け入れ、講義室の机の配置換えや椅子の補充等、必要な環境整備を行った。時間割作成にあたっては、学務課の理解もあり、概ね E 館・F 館の教室を確保することができた。

今年度も座席表を作成し（H17～）、年間 4 回の座席替えを実施した。出席番号を基本に作成しているが、配慮を要する学生については柔軟な対応を行った。一方で、固定的なメンバーでの学習環境になりがちである点は、個々の授業担当者の工夫（グループ編成を変えるなど）に依存している面も多く、さらなる対応が望まれる。

④ 休学、退学、留年について

平成 27 年度は、1 名の学生が進路変更のため 1 年次 9 月に退学、1 名が体調不良のため 1 年次 9 月より休学している。また、1 名の学生が取得単位数不足のため、次年度も 1 年次に留まる予定である。これらの学生に対しては、担任を中心に個別相談や指導、保護者面談等、きめ細かな対応を行った。

(2) 教員免許更新講習への対応

平成 27 年度の「教員免許更新講習」では、「選択科目」（3 講座 18 時間）を開講した。実施日は 10 月 4 日（日）、24 日（土）、31 日（土）の 3 日間、受講者数は 55 名であった。

(3) 教育課程懇談会の実施

① 2年生と教員による教育課程懇談会

2年間の学びを通して感じた率直な意見を学生から聞くことを目的に、1月6日(水)に「2年生と教員による教育課程懇談会」を実施した。今年度は第13回目にあたり、2年生18名、学科教員8名の計26名で、教育課程、実習、学生生活等について懇談した。

(4) 学生間の交流支援(学生相互の学習体験や実習体験の交流)

今年度も、昨年度に引き続き、学習や実習の体験を語り合う交流支援を行った。

① 学外研修での1・2年生の「交流会」の実施。

② HR等の機会を利用した、2年生から1年生への「実習連絡・報告会」の実施。

③ 講義を利用した交流支援(「保育者論」(2年)で1年生向け「実習ハンドブック」を作成・配付。「保育課程論」(1年)「保育者論」(2年)の合同授業で、2年生が取り組んだ「ロールプレイング」を実施。)

④ 「総合演習発表会」「卒業演奏会」「運動会」への1年生の参加。

(5) 科目横断的授業実施の取り組み

昨年度に引き続き、「音楽Ⅱ-2(オペレッタ)」「保育内容(言葉Ⅰ)」「保育内容(健康Ⅱ)」「図画工作Ⅱ-2」(2年)の協働によりオペレッタの制作・公演活動に取り組み、その成果を「富山第一銀行奨学財団研究助成セミナー研究成果発表会」で発表した。また、「体育Ⅱ」「保育内容総論」(1年)「保育内容(健康Ⅱ)」「家庭支援論」(2年)の合併授業として、学生の企画・運営による運動会を開催した。その他、実習指導や保育内容の表現系科目においても科目横断的な授業を実施し、教育効果や教員間の協働性を高める取り組みを行った。

(6) 基礎演習科目

教養科目「基礎演習」(1年)を開講し、学びのためのスキルの向上を図った。レポート等の記述力、文献の検索力、読書力等の面で、ある程度の向上が見られたが、受講態度やレポートの期限内の提出等、学びの姿勢の面での改善への取り組みが必要である。

(7) 読書活動・情報収集活動の推進

「基礎演習」「保育の心理学Ⅰ・Ⅱ」等で利用を促したり、実習の際に絵本の携行を呼びかけたりした結果、付属図書館の貸し出し冊数は前年度の3倍に増加した。

(8) 平成27年度教務委員業務報告

全学及び学科の教務委員業務に関する実績は〔別紙資料①〕のとおりである。

(9) 「自己点検表」による学科の自己点検について

厚生労働省東海北陸地方厚生局が、「養成施設等の適正な運営」のために作成している「自己点検表」に基づき、別添のとおり自己点検を行った〔別紙資料②〕

2. 課題

(1) Web シラバス機能の活用

本年度は、学生による「授業アンケート」と教員の「授業改善レポート」作成の体制が整備され、web シラバスによる学修成果評価システムが完成した。次年度以降は、学科教員の理解を深めるとともに、その有効な活用について検討・実施を進めていく必要がある。また、学生に対しても、授業計画の確認、日頃の授業での活用、「授業アンケート」への回答等、Web シラバスの総合的な活用に向けて、さらに指導を強化していく必要がある。

(2) 教員間の情報共有のあり方について

学科の教務に関する様々な情報については、教員間が情報を共有し、必要な時にすぐに閲覧・利用できることが望ましい。現在、業務担当者のみが保存しているデータを教員間で共有するためのシステム構築が求められる。同時に、データ共有のリスクを鑑み、必要な利用ルール等を設定することが必要である。

(3) 学生への情報提供と履修に対する意識の向上

Web シラバスだけでなく、「学生生活のしおり」や「履修カルテ」など、各種資料を用いて情報提供を行っているものの、学生の履修に対する意識や自ら学ぶ姿勢の高まりに十分つながっていない面がある。まずは、情報の周知徹底を図るため、各学期始めのオリエンテーションの内容や運営方法の見直し（学科内のプログラム化、全学プログラムとの調整）を行う必要がある。その上で、個々の学生の実態やニーズに応じて、必要な情報提供や相談を行う体制を整えていくことが求められる。

(4) 学習環境の保障

短大の3学科だけでなく大学や高校とも教育施設を共有することが多く、一人一人の学生に充実した学習環境を保障するためには教職員の努力と工夫、連携が求められる。平成28年度には、2年次に多くの学生が在籍するため、教室の確保や学生用ノートパソコンの補充等、ハード・ソフト両面での環境向上のための努力が必要である。

(5) 協同作業やグループ討議等による授業の実践

アクティブラーニングの実施に向けて、専任教員が実践に取り組むことを申し合わせた。次年度に向けて、実施状況の可視化を図る方法を検討していきたい。

(6) 地域課題の理解や解決に向けた取り組み

「総合演習」の研究テーマとして、地域課題をより多く取り上げることを検討した。本年度は、富山県内の保育所における黒板使用の実態、保育実践ジャーゴン、近隣住民との間の騒音問題等がテーマとして取り上げられた。

(7) GPA の活用

GPA は、全学的に成績不振者に対する指導の指標として示された。学科内では、学外における実習への参加要件に挙げることを検討した。

(8) 特色ある保育者養成課程の検討

本学科の特長を最大限に生かした教育内容を示す「特色ある保育者養成課程」の必要性を認識しながらも、なかなか具体的な取り組みへと踏み出していない状況である。子ども育成学部との関係も考慮にいれながら、「感性」「表現」といったキーワードを軸に、具体的な特色づくりと養成課程への体系化に取り組んでいくことが今後の課題である。

[別記] 平成 27 年度学生在籍状況 (平成 28 年 3 月現在)

1 年 在籍 109 名

2 年 在籍 83 名

3. アクションプランとの関連

【指針 1 : 教育】 1-(4)-① 読書活動・情報収集活動の推進

「1. 現状 (7)」で述べた通り、「基礎演習」「保育の心理学 I・II」等で利用を促し、実習の際に絵本の携行を呼びかけた結果、付属図書館の貸出冊数は3倍に増加した。

【指針 1 : 教育】 1-(4)-② 科目協働による総合的な授業の実施

「1. 現状 (5)」で述べた通り、「音楽II-2 (オペレッタ)」「保育内容 (言葉 I)」「保育内容 (健康 II)」「図画工作 II-2」の協働によりオペレッタの制作・公演活動に取り組んだ。また、「体育 II」「保育内容総論」「保育内容 (健康 II)」「家庭支援論」の合併授業として運動会を開催した。

【指針 1 : 教育】 2-(5)-① 協働作業やグループ討議等による授業の実践

(【指針 1 : 教育】 4-(12)-①再掲)

「2. 課題 (5)」で述べた通り、専任教員によるアクティブラーニングの実施状況の可視化を図る方法を検討する。

【指針 1 : 教育】 2-(5)-② 地域課題の理解や解決に向けた取り組み

(【指針 1 : 教育】 3-(8)-①、【指針 1 : 教育】 4-(12)-②再掲)

「2. 課題 (6)」で述べた通り、「総合演習」の研究テーマとして地域課題をより多く取り上げることを検討する。

【指針 1 : 教育】 2-(6)-① 基礎演習科目の開設

「1. 現状 (6)」で述べた通り、「基礎演習」を開設した。レポート等の記述力、文献の検索力、読書力等の面で向上が見られた。

【指針 1 : 教育】 2-(6)-① GPA の活用

「2. 課題 (7)」で述べた通り、GPA を学外での実習への参加要件とすることを検討する。

1. 現状**(1) 実習計画と履修状況 [別紙資料]**

保育士資格取得希望者の必修選択科目として、1年生 106 名が履修した(3 名は新潟県、1 名は石川県で実習)。

(2) 麻疹等小児期ウイルス感染症への対応について

例年通り、富山市内で実習を行う学生には「実習生の健康状態についてのお知らせ」を添えて、入学時健康診断による「麻疹抗体価測定血液検査結果票(写し)」を持参させた。現在、麻疹抗体価測定値の基準が厳しく再接種の件数が多くなっているが、保健室と連携しながら進める。

(3) 特別講義を通じた学び

例年通り、富山市立保育所所長による特別講義を実施した。保育実習 I - 1 で対象となる乳児の保育について理解を深めると共に、現場保育士からの「実習生受け入れで感じたこと」や「実習生へのメッセージ」が語られ、学生たちは初めての学外実習への意欲を高める機会となった。

2. 課題**(1) 健康上配慮が必要な場合について**

健康上配慮が必要な学生に関して、実習受け入れ側と実習個別指導担当者間で、必要な情報の共有と具体的な説明を行った。このように今後も実習にあたり、健康上配慮が必要な学生について事前に保健室看護師との間で確認をし、適切な指導や実習の進め方について科内で十分に検討する必要がある。

(2) 事前・事後指導の充実

保育実習 I - 1 では指導計画案の作成は課していないが、本人の希望があったり、実習先が適当と認めたりした場合には実施している。今回、部分担任を促されたが辞退した学生がいたことを踏まえ、乳児組における活動とその指導案の作成を含む事前指導の検討が必要である。

(3) 学外実習の手引きの活用と見直し

『学外実習の手引き』を基本として事前指導を行い、学生にもその内容を絶えず確認するよう指導する。補足、語句の整理など見直しの必要な部分も見受けられる。

3. アクションプランとの関連**【指針 I : 教育】 1 - (3) - ② 実習指導の体制を点検・強化**

実習主務者、実習個別指導担当、担任、さらには保健室等との連携を図り、個々の学生の实習指導に対応した。

1. 現状**(1) 平成 27 年度 保育実習 I-2 日程表**

[別紙資料]

(2) 実習の状況

1 学年 107 名の学生が第 1 班 (20 施設 55 名)、第 2 班 (20 施設 52 名) に分かれて実習を行った。実習期間中に、病気などで実習を欠席した学生があったが、施設との相談で補充実習を行った。また、体調不良等により、実習直前に実習延期となったものが 2 件、実習中の中止が 1 件あった。実習前は多くの学生が強い不安を感じている様子であったが、ほとんどの学生が前向きに実習に取り組むことができた。

(3) 2 年生からのガイダンスの実施

平成 27 年 1 月 20 日 (水) 5 限に、事前指導の一環として、2 年生からの施設実習ガイダンスを、配属施設別に実施した。学生は、特別講義と事前学習で施設の概要はおおよそ理解していたものの、実際の実習がどのように進められたのか具体的な話を聞くことで、実習及び施設への理解を深め、実習の不安感の軽減、実習への意欲的参加につながった。

2. 課題**(1) 実習施設の受け入れ**

近年、宿泊を伴う実習先が減り、配属が困難となっている中で、107 名の学生の実習受け入れ先の確保は相当難しく、いくつかの実習施設に協力をいただき、例年以上の実習生を受け入れていただいた。また、従来は実習Ⅲのみの対象としていた障害者の通所施設を実習対象施設に含めたことにより、何とか受け入れ先を確保することができた。

例年、富山大学と実習期間が重なるため、担当者間で実習生数の調整を行う必要があるが、年々調整が難しくなっている。また冬期間の実習となるため、通勤の危険に対する安全対策や感染症に対する予防対策を徹底していきたい。

(2) 事前・事後指導の充実

施設ごとに行う 2 年生からのガイダンスは、細かい注意事項や配慮等が丁寧に伝えられていて効果的であった。施設の現場の方からの特別講義は、施設における保育士の役割理解の促進につながった。事前・事後指導の充実を図るとともに、関連する学習科目の内容を繋げ、学びに活かされる実習となるよう位置づけて取り組む必要がある。現在は実習後に開講される「障害児保育」の開講時期についても、検討していく必要がある。

3. アクションプランとの関連**(1) 【指針 1 : 教育】 1-(3)-②実習指導の体制を点検・強化**

保育実習指導 I (保育所関連)、教育実習 I の担当者と連携を図り、実習の基礎的事項が確実に定着するような指導内容としていきたい。

I - 2 - ③ 保育実習指導 I

担当 [梅本、橋本、石動、飯田]

1. 現状

(1) 平成 27 年度保育実習指導 I 授業計画 [別紙資料①②]

(2) 指導内容の充実

特別講義や施設見学を通して、現場の先生方から学ぶ機会を設けたり、グループで課題に取り組むなど、実習に必要な知識を多様な方法で学ぶことができた。

(3) 実習中及び事前事後指導

県外の学生を含め学科教員全体で実習中及び事前事後指導が丁寧に行えた。担当教員の個別のかかわりで、実習関連の提出物が滞りなく作成され提出された。また、健康面等で個別の配慮が必要な学生については、担当教員を中心に実習先と連携をとりながら実習参加を進めることができた。

(4) 実習報告会の実施

事前指導の一環として、2 年生が、1 年生に対して自らの実習体験を通して学んだことを伝え、1 年生の疑問・質問にこたえる機会を設けた。2 年生が保育者論の授業で作成した「実習ハンドブック」が 1 年生へ配布され、実習生の視点からの情報が提供された。保育実習 I - 2 の前には、施設ごとにグループを編成して話し合い、1 年生にとっては、初めての施設実習に対する不安感を解消し、意欲をもって実習に臨めるきっかけとなった。

2. 課題

(1) 指導内容の充実

保育実習 I - 1 では実習先によっては部分担任が求められる。意欲的に部分担任に取り組めるような事前の指導が必要である。夏季休業中の自主実習が 1 年生にとっては初めての学外実習となるため、自主実習の時期をとらえて保育実習指導の授業計画に学外実習の位置づけと具体的な指導を入れる必要がある。

(2) 実習事前指導の充実

実習に対する目標がより具体的なものとなるよう、次年度に向けて、事前訪問の報告書様式を見直したが、引き続き検討が必要である。

(3) 実習要件の検討

学習成績の面で実習履修のための条件を満たせず、実習に参加できない学生がいた。十分に話し合い職員間で共通認識としたうえで指導に当たった。実習の参加要件として GPA の基準値を『学外実習の手引き』に明記することを確認した。

3. アクションプランとの関連

【指針 I : 教育】 1-(3)-① 実習事前訪問の際の報告書様式を検討・改善

実習事前報告書様式について見直しを図り、改善案を科内会議に示し、次年度に向ける。

【指針 I : 教育】 1-(6)-① GPA の活用

実習の参加要件として GPA 値を検討し、設定した。

I - 2 - ④保育実習Ⅱ・保育実習指導Ⅱ 担当 [橋本・梅本]

1. 現状

(1) 実習計画と履修状況 [資料①]

保育士資格取得希望者の必修選択科目として、2年生82名が履修した。

(2) 麻疹等小児期ウイルス感染症への対応について

例年通り、富山市内で実習を行う学生には「実習生の健康状態についてのお知らせ」を添えて、入学時健康診断による「麻疹抗体価測定血液検査結果票（写し）」を持参させた。なお、血液検査結果で抗体価が「弱陽性」「陰性」の者には予防接種を勧めている。予防接種を済ませた場合は、医療機関で結果票に証明を記入してもらっている。

(3) 事前・事後指導 [資料②]

「保育実習指導Ⅱ」と「教育実習指導」が2年前期に開講され、いずれも3歳以上児を対象とした実習であり、指導内容では共通する部分が多い。そのため、それぞれの実習指導担当教員間で指導内容の共通理解を図り、テキストなどを活用しながらつながりを持った指導を試みた。また、個別指導の機会として、学生が作成した指導案を実習担当教員が分担して添削したり、実習学外評価を基に希望者に個人面談を行ったりした。

(4) 保育実習Ⅱ実習懇談会の開催

平成27年8月5日(水)14時～16時で行い、実習先の保育所から6名の出席があった。実習生の指導を通して、実習生自身の幼少期の遊び体験が不足していると感じさせる姿があるという実感や実習生が実習を終えて感じたことを資料として挙げてほしいなどの要望があった。また、養成校と保育所が協働ですすめる保育実習であることを確認しあう有意義な機会となった。

2. 課題

(1) 教育実習指導との連動性

2つの実習指導において、それぞれの担当教員が相互に指導内容についての連携を図っている。今後も指導内容の引き継ぎや問題点の共通認識を図り、複数の教員が担当する利点を充実させていきたい。

(2) 実習指導体制の強化

健康面に配慮が必要な学生について、事前に本人の現況を確認し、必要に応じて個別担当教員もしくは実習担当教員が実習先と連絡調整を行う必要がある。

3. アクションプランとの関連

(1) 実習指導の体制を点検・強化

実習履修のための要件について、実習担当は担任や科内で随時確認をし連携を図りながら、必要に応じて対応していく。

I-2-⑤ 保育実習Ⅲ・保育実習指導Ⅲ 担当 [石動・飯田]

1. 現状

(1) 平成 27 年度実施状況

保育実習Ⅲ日程表〔別紙資料①〕、保育実習指導Ⅲ授業計画〔別紙資料②〕

(2) 実習の状況

今年度の履修者は1名で、児童発達支援センターにおいて実習を行った。1名ということで、実習先の保育場をを観察するなど、実習課題に即した内容を事前学習に取り入れることができた。また自らの進路希望に深く関わる実習選択であり、実習での体験を通して、施設保育士としての自己課題を導き出すことができたようである。履修人数にかかわらず、事前・事後及び実習中のケアや指導の必要性を改めて感じた。

2. 課題

(1) 実習施設の選定について

保育実習Ⅱ（保育所）との選択実習であり、履修者数は以下のように推移している。

年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
人数	5 名	11 名	9 名	7 名	3 名	1 名

実習選択前のヒアリング参加者は12人。多くは保育所や幼稚園での就職を望みながらも、福祉施設での経験によって、新たな学び・価値観を得ることを目的としていた。しかし、2年間の学びでは、就職を見すえ、必要な保育技術を確実に獲得することが重要であり、結果的に1名の受講となった。個々の思いを丁寧にとらえ、適切な実習施設の選択・選定につながるような指導を心がけなければならない。

(2) 事前・事後指導の内容について

今年度は、個別指導の形となったが、実習内容の深まり、履修者の学びや充実感などに、一部課題もみられた。改めて指導内容を検討し、改善を図っていきたい。

3. アクションプランとの関連

(1) 【指針1：教育】1-(3)-②実習指導の体制を点検・強化

保育実習Ⅲ履修者が、指導案作成や責任実習実施のための演習を受けることができるように、教育実習指導及び保育実習指導Ⅱ（保育所）の担当者と連携を図り、合同講義の実施を行った。今後も各担当者と連携を図り、実習指導内容を充実させていくこととする。

1. 現状

別添の授業計画に沿って実習と事前・事後指導（反省会）等を行った。1年次の前期には前半に観察実習を4サイクル行い、その後、講義と並行して参加実習を行った。9月には、4日間ずつの参加・部分担任実習を行った。

5月の観察実習に入る前に、幼稚園の概要について伝え、本実習の意義について、4月中に説明を行った。また、「実習日誌の書き方」のテキストを用いて基本的な部分について講義を実施した。

入学直後、はじめての実習として園児や実践の場に関わることで、保育者をめざすことへの動機づけにもつながり、本実習は重要な位置づけとなっている。

(1) 観察・参加実習（1年前期前半 5月7日～6月18日）

学生数は110名、配属される保育室は5クラスである。1クラスにつき学生数11名になるようにグループ分けし、観察実習を行った。参加実習では、1クラスに5名～6名配属されるようにグループ分けして、1班が実習中には別の班は学内で講義を行うなど、実践と並行して知識・技能の獲得を目指した。さらに、参加実習を終えた段階で反省会を行い、学生自身の自覚を促した。

(2) 参加・部分担任実習（1年前期後半 9月2日～9月28日）

参加・部分担任実習に向け、実習内容を考慮した指導案の書き方指導を行った。前年度同様、実習生が園児の前で行う「手遊び」をテーマに設定した。そのため、指導案の書き方指導もそこに照準を合わせて行った。その際、付属幼稚園と協議の上で内容設定を行い、連携して進めることができた。幼稚園からは、「手遊び」がテーマになったことで、実習生が来るたびに新しい遊びを紹介してくれ、園児が家でも再現するほど楽しんでいるなど、おおむね肯定的な意見が多かった。また、前年度、幼稚園から指摘があった、音程のズレなどについては、グループ内で楽譜をきちんと確認するよう指導を行った。

部分担任実習では1クラスにつき5名～6名配属されるように、学生をグループ分けした。学生は、学内であらかじめ1人1枚ずつ作成した指導案を持って9月の実習に臨んだ。全日程終了後9/29の登校日に、「実習反省会」として、4日間の実践を踏まえた上で、各自の指導案を改めて丁寧に仕上げ、省察した。

2. 課題

実習中、幼稚園や短大に連絡をせず遅刻してくる学生や、日誌を決められた期日に提出できない学生が例年になく目立った。単位不認定となる学生もおり、多様な学生に対する指導や評価の方法など、実習指導の体制を強化していく必要がある。

3. アクションプランとの関連

学科教員間や付属幼稚園との連携・強化をより一層図り、実習のあり方を検討する。

1. 現状**(1) 実習計画と履修状況**

平成 27 年 9 月 16 日（水）～10 月 2 日（金）、2 年生 83 名が県内 50 箇所の幼稚園で 10 日間の実習を行う予定であったが、体調不良と治療のため、2 名が期間を変更して実施した。1 名は実習を途中で中断、履修を中止した。 [資料①]

(2) 実習園の調整・確保

9 月に県内 2 大学が 3 週間、本学が 2 週間の教育実習を行うため、3 校で連絡を取り各校で事前に調査した実習希望数を基に、富山市内公立幼稚園は富山大学で、その他の県内幼稚園は国際大と富山短大で園に受け入れ可能学生数を 1 月中に伺い調整した。本学は次年度、107 名の学生が教育実習Ⅱを履修希望している。昨年度までは予め実習期間を設定して実施していたが、受け入れ人数を確保するため、実習期間を 9 月 8 日～30 日の内 2 週間とし、園が希望する実習期間で受け入れていただく方法で依頼を行った。

(3) 教育実習懇談会の開催

実習先幼稚園から 6 名出席、10 月 22 日 15 時より約 2 時間、実習の時期、日誌・指導案の記録や取り組む姿勢等、充実した実習となるための貴重な意見が出された。

2. 課題**(1) 他校との連携と調整時期及び受け入れ先の確保**

9 月に実習を行う 3 校で今年度も調査協力を行い実習先の調整をしたが、県外に進学している実習生の受け入れや行事との重なり、指導できる教員の不足を理由に断られるケースも少なくなかった。少子化や幼稚園離れが進み、閉園する園が増えてきている一方、こども園に移行するケースが増えてきている。公立幼稚園が少なく、養成校が経営する園が多い高岡・射水地区や幼稚園が非常に少ない魚津市・黒部市・下新川地区については、さらに配属調整が難しくなっている。今後は 3 校調整の開始時期を早め（12 月頃）、こども園を含めて受け入れ可能な実習先の開拓などを検討する必要がある。

(2) 実習の実施期間、園の取り組みと学生の意欲

9 月は祭日が 2 度ある上に運動会を行う園が多く、多忙な状況での実習生の受け入れは、部分や全日実習を実施する時間を確保することが難しい反面、行事の運営や準備、練習を体験できることの良さがある。実習より先に私立幼稚園適性検査が実施されることや公立保育所の採用予定者数が多いことで、今年度も私立幼稚園に応募する学生が少なかった。夏期休業中の後半であり、就職が内定している学生や実習中に公務員や民間の採用試験を受ける学生がおり、保育実習Ⅱ・Ⅲよりも教育実習Ⅱに対する学習意欲や準備が十分とは言い難い学生が少なくない。また、受け入れ側の教育方針や方法に学生が戸惑う姿も見られる。7 月の「実習指導」の内容を見直し、保育実習Ⅱ・Ⅲでの学びを生かした指導の在り方を検討したい。

3. アクションプランとの関連

(1) 【指針1：教育】1-(3)-②

「教育実習懇談会」を開催し、実習先担当者と学科教員が指導体制や実習方法の状況や課題について意見交換し、改善を図った。

I-2-⑧ 教育実習指導

担当 [難波 中山 梅本]

1. 現状

2年次の通年科目（実習・1単位）として実施。授業の第1回から4回の4コマ分は、附属みどり幼稚園にて、「入園準備1日実習」として実施。園児は春休み中の為、登園していないが、幼稚園の各クラス担任の指示のもと、新クラスの受け入れ準備や、園庭の環境整備などを行う、毎年恒例の貴重な機会となっている。

本来は「教育実習IおよびIIの事前・事後指導」の授業であるが、平成24年度より6月の保育実習II・IIIを控えた前期については、「保育実習指導II・III」と連動して、実習日誌と指導案の書き方について多くの時間を充てている。【別紙資料①参照】

指導案については、保育者の配慮点についてのイメージを高められるよう、「紙皿のコマ」などの遊べる手作りおもちゃ製作を「造形表現II」で行い、学生が自分の作品を手にした状態で、「教育実習指導」の時間内に、作成に取り組んだ。この取り組みによって、学生が苦手とする「ねらい」と「内容」のとらえ方や、「予想される子どもの活動」に対する保育者の援助や配慮について何をどのように記入していけばよいか、イメージしやすくなったものと思われる。

後期は、前年度課題に挙げていた、みどり幼稚園在園児親子を対象とした親子活動を「とみんぐ」と名付け、具現化することができた。2年生を3グループに分け、A:「新聞紙で遊ぼう」、B:「体を動かして遊ぼう」、C:「ツリー・リースを作ろう」をテーマにA館プレゼンスタジオを活用して、毎回約30組の親子を招いて活動を実践した。実践活動を終えた後は、3回分自己課題に取り組む時間とし、最終回には各自が制作したパネルシアターなどの作品を使って、発表を行った。【別紙資料②参照】

2. 課題～指導案の活動内容やねらいの具体化

指導案については、少しでも学生がイメージしやすいよう、わかりやすいテキストを活用したり、造形表現の授業とつなげたりと工夫はしているものの、各々の学生が配属された実習先の担当クラスの年齢や子どもの実態に合わせた活動内容、それに対する「ねらい」の具体化が、まだまだ難しいようである。

3. アクションプランとの関連

後期は時間割を4限に組むことで、保育終了後の附属幼稚園児親子を短大に招くことが可能となった。園児だけでなく保護者と関わることで、数か月後には保育の現場に出ていく学生たちにとって、保護者への言葉遣いや対応についても学びにつながった。このため、引き続き学外活動の時間を確保するためのカリキュラム・時間割の改善工夫が必要である。

1. 現状

(1) 富山県保育実習連絡協議会の開催及び報告

平成 27 年 12 月 8 日（火）午前 10 時から 12 時、事務担当校の本学（E 館、2 階会議室）において、県内保育士養成校 6 校が会し、平成 28 年度実習日程の調整及び保育士養成に関わる現状と課題等について協議した。その他の協議事項としては、認定こども園での実習の現状と今後の方向性、公立保育士の試験日程について、実習評価が低いとされる学生の保育士資格取得に対する考え方、実習連絡協議会への関係機関・団体への出席依頼等について、情報交換・話し合いが行われた。平成 28 年度実習計画表〔別紙資料〕

2. 課題

(1) 他校との連携と調整につて

〈保育実習Ⅰ-2：富山大学〉〈保育実習Ⅲ：富山福祉短期大学〉〈教育実習Ⅱ：富山大学・富山国際大学〉の 3 実習が他校の実習期間と重なっている。施設や幼稚園での実習は受け入れ可能人数が限られているため、保育実習Ⅲ以外は事前に各校の担当者間で調整を行っている。教育実習Ⅱは次年度より期間を指定してその内の 10 日間の実習としているが、3 校同時に 150 名以上の学生が県内で実習を行う期間があり、今後も園の減少が続く場合は調整することが難しくなることも考えられる。時期の変更も視野に入れて、再度検討することが問われている。

(2) 保育実習連絡協議会の今後について

事務担当校は、各校から依頼された学生の実習配属表を送付するまでの事務を担当することが確認された。配属表送付以降の変更等については、各校が個別に連絡・調整するが、その結果を事務局に報告する必要はないことが決定された。公立保育士の試験日程については、引き続き協議会として富山県市長会へ申し入れを行うことが決定された。本学学科長が代表して、2 月 5 日、市町村保育士採用試験の可否発表までの期間の短縮化と面接内容の改善を、富山県市長会、富山県町村会に申し入れた。実習連絡協議会への関係機関・団体の参加については、現在の状況を継続しながら、必要があればその年度に要望を確認し講師を招く等の対応をすればよいのではないかと提案したが、連絡協議会の中で行うのか、別に機会を設けるのか等の問題もあり、結論が出なかった。

(3) 幼保連携型認定こども園での実習について

幼保連携型認定こども園での実習については、保育実習と教育実習で重ならない配慮が必要である。また、認定こども園への実習内容の依頼については、各実習の位置づけを何らかの形で伝えるとともに、学生には実習先が認定こども園であることをしっかり知らせて指導していくことが必要である。

3. アクションプランとの関連

【指針Ⅰ：教育】1-(3)-④ 各種団体に向け、選考システム改善のための申し入れ

実習連絡協議会の名で、富山県市長会、町村会に選考期間の短縮、実施要項どおりの試験実施を申し入れた。

1. 現状

(1) 事前・事後指導

オリエンテーションでは、保育や施設の理解を深める体験学習であり、夏期休業期間を有意義に過ごすための貴重な機会として、自主実習参加を学生に奨励した。学生自身が実習希望先と連絡を取り内諾を得た後、7月中旬までに書類と検便を提出した。「事前・事後の流れ」「配慮・注意事項」「事後報告書」「礼状の記入例」に加えて「依頼電話の掛け方」の資料を作成し、参加学生に配布した。実習中は大きなトラブルもなく、実習報告書の提出状況は良好であった。

(2) 実習状況

			1年 (昨年度)		2年 (昨年度)		計 (昨年度)	
在籍数 (前期)			110	83	83	87	193	170
実習者数			85	80	24	37	109	117
実習件数	公立	保育所	24	13	0	0	24	13
		こども園	2	6	0	0	2	6
		幼稚園	3	4	0	0	3	4
		施設	0	0	0	2	0	2
	私立	保育所	47	38	18	55	65	93
		こども園	4	6	3	0	7	6
		幼稚園	6	17	6	2	12	19
		施設	0	0	0	0	0	0
計			86	84	27	59	113	143

2. 課題

(1) 実習参加率の低下

1、2年共に実習の参加意欲が低下している。特に1年生は参加率が77%であった。理由としては、保育に対する関心の低い学生や短い休業期間を余暇やアルバイトの充実にあてる学生が増えたと考えられる。また、実習先を探し、自ら交渉・手続きを進めることに対する不安が大きい学生が少なくなかった。学生生活に慣れ、落ち着き始める6月中旬にオリエンテーションを繰り返して、実習の意義を伝え意欲を喚起しつつ、抵抗感を和らげる手立てが必要である。

(2) 2年生における実習の捉え方

2年生は、「就職先を検討・比較・絞り込むための実習」と捉える傾向が強い。近年、合同福祉職場説明会の参加施設増加や内容が充実してきており、職場見学や1日体験を実施する施設も増えてきている。公務員採用試験や私立幼稚園適性検査を含め、各自の就職先に対する情報や希望を整理して、無理のない実習計画を立てることが必要だと思われる。

3. アクションプランとの関連

(1) 【指針1：教育】 1-(3)-④

補充授業を効率的に実施し、夏期休業中に参加できる自主実習の実施期間確保に努めた。

1. 現状

(1) 各研究分野への配属と研究・調査の実態

班編成8分野、9名の専任教員が担当した。配属発表後、学生の希望により数名の分野変更があった。各教員の担当学生数は6～11名であり、班編成は全体で25班となった(昨年度24班)。

(2) 中間発表会

大学祭の学科企画としての中間発表会では、各班がポスターで調査研究の全体像を効果的に表す工夫を重ね、集積した情報を整理することで今後の調査や考察に関する見通しを立てることができた。来場者にはアンケートを実施、1年生には中間発表を見ての感想レポート提出を課し、来年度の総合演習へ向けての動機づけとした。

(3) 『総合演習第39集』について

原稿作成について1班あたり調査系の研究は8頁、実技・製作系の研究は5頁とした。指導教員の指導確認を受けた後、印刷した原稿とそのデータを保存したUSBメモリを提出することとした。記録集の学外施設への事前配布については、県内保育士養成校、幼児教育研究会後援団体、県厚生部、県経営管理部文書学術課に送付した。さらに、各班の調査協力施設(者)には、発表会終了後学生自らがお礼と報告に伺い、記録集を手渡すよう指導した(一部郵送あり)。

(4) 総合演習発表会

E館7階で2会場にわかれて、各会場ですべての分野の発表が行われるようにプログラムを構成した。リハーサル及び当日の運営は、学生運営スタッフが中心となって行った。プレゼンテーションはスライドを用いる班がほとんどで、その他実演を行う班もあった。学外からは1名の参加があった。1年生には、事前に記録集を読んで感想や質問事項を記述する課題を与えたところ、当日の発表を真剣に聞く姿があったり、自ら質問をしようとするなど積極的な参加態度がみられた。

2. 課題

(1) 記録集・発表会の充実

記録集の発行部数は、今年度学生数の増加で例年通りの部数では不足する状態だった。早めに調査協力施設をとりまとめ、印刷製本部数を調整する必要がある。また、少人数の班で調査協力施設が多く短期間でお礼訪問が難しい場合は、郵送とするが、総合演習担当教員で事前に取りまとめるようにする。

発表会への積極的な参加を促すために、できる限り事前に記録集配布後目を通し、研究への興味関心を高める機会を設けるなど工夫していきたい。

(2) 学習環境の充実

印刷用のプリンター、ノートPC、文具など共用で使用する物の適正な使用についての指導・管理が求められる。

(3) 総合演習のあり方について

現在この科目は、保育の総合的研究に関する科目として位置づけられ、学生は保育に

関する学びに基づいて自らテーマを設定し 1 年を通して研究に取り組んでいる。今後は、より地域課題や現代的課題に積極的に取り組むために、総合演習のあり方について検討したい。

3. アクションプランとの関連

(1) 地域課題の理解や解決に向けた取り組みを学ぶカリキュラムの検討

地域における課題に着目し、今年度は保育所と近隣住民の騒音や富山の保育所における黒板使用の実態について取り上げる班があった。今後も、指導教員の研究活動も生かしながら地域の課題にも目を向け、また継続的に取り組む研究など学びを深める指導をすすめていきたい。

I - 4 保育・教職実践演習

担当 [石動・宮田・飯田・梅本]

1. 現状

(1) 授業の概要 [別紙資料] のとおり

保育士・幼稚園教諭が身につけることの必要な「4つの資質能力」(①使命感・責任感・教育的愛情と感性、② 社会性・対人関係能力、③ 乳幼児理解やクラス運営、④ 保育内容の指導力)を4クールとして構成。各クールで保育現場から講師を招き、テーマに関する内容の講演をいただき、グループ演習を通して理解を深めた。

(2) 授業の進め方

昨年度の課題をふまえて、今年度は外部講師からの講義数を減らし、グループ演習の時間を十分に確保した。また、保育指導に関する内容をテーマとするクール(上記③④)については、より実践的な課題でグループ演習を行うとともに、発表内容を重視する評価方法へと変更した。各テーマに応じた演習内容(討議、環境図の作成、ロールプレイ)を設定し、様々なアプローチを試みたことで、意欲的な学びにつなげることができた。

(3) 成績評価の方法

各クールの評価点(課題レポートの内容もしくは発表内容を中心に評価したもの)を平均化したもの(90%)に、授業への参加態度(10%)を加えた総合評価とした。

2. 課題

(1) 授業参加態度及び授業の工夫について

今年度、実践的課題を設定し、発表重視の方針を示したこともあり、授業参加態度に若干の改善がみられた。また発表内容も、他教科での経験が生かされ、少しずつ向上してきている。しかし、保育実践力向上につながる内容としては不十分であり、さらなる授業内容の工夫が必要である。また、講義内容のまとめや演習課題の討議・発表を通して、4つの資質能力の理解は図られているものの、「自己課題の発見」へのつながりは不十分である。この点においても、指導内容や方法の検討が必要である。

(2) 評価方法や観点について

これまでの学びをまとめ、保育者としての成長を確認する科目であるという性質上、細やかな観点による評価を行いたいところだが、評価の観点等、具体的な検討を行うことができなかった。今年度から取り入れたグループ発表による評価点の妥当性と併せて、引き続き次年度の検討課題としたい。

3. アクションプランとの関連

(1) 指針1-(2)-⑤【授業内容・方法の点検・改善】 協働作業やグループ討議を重視し

互いに発表し合うことに加えて、より実践的な演習課題を設定することで、アクティブラーニングによる学びが深まるように工夫している。次年度も継続していきたい。

Ⅱ－１ 学生指導

担当 [梅本、飯田、橋本、中山]

1. 現状

(1) 休学、退学、復学等について

退学 1年生 1名 (2015年4月入学、平成2015年9月退学、進路変更のため)

休学 1年生 1名 (2015年4月入学、2015年9月～2016年3月、
2016年4月～9月、体調不良のため)

(2) 学業への姿勢

学業不振の学生への指導について。1年次の学業不振の学生は、実習履修のための条件を満たさなかったため保育実習を受けることができなかったが、担任を中心に保護者面談を含め個別指導を実施した。2年次の学生には、担任と教科担当教員を中心に個別指導を徹底した。2年後期になると、全ての実習を終え、進路内定による気の緩みがあるためか、一部ではあるが受講態度の乱れが見られた。

(3) 健康面等での指導

アレルギー疾患をもつ学生については、引き続き発作時の対応である「緊急時対応マニュアル」に基づき体制を整える。心に悩みを抱える学生については、保健室と連携しカウンセリングに繋げたり、過程とも連絡を取りながら個別の指導にあたった。その他様々な持病を持つ学生についても、保健室看護師との緊密な連携をとりながら指導にあたった。

2. 課題

(1) 健康上の留意

持病を持つ学生はもとより、入学時健康診断で把握した情報をもとに、できるだけ早く保健室看護師と学科担任や教科担当教員などが連携をとり、個別的な対応が求められる。

(2) 学生指導のあり方

基礎学力や自己管理能力が十分とは言い難い学生が目立つようになり、個別相談や指導に費やす時間が増えてきている。学科全教員が対応しているが、担任が指導に当たる比重が重い。引き続き科内会議での情報共有をもとに、教員が連携して指導に当たる必要がある。

(3) 学生への情報提供

授業をはじめとした学生生活全般の必要な情報が、掲示板をはじめ様々な方法で発信されているが、必ずしも学生に有効に届いていない現状もある。基本的には、学生が自ら情報にアクセスするというのを入学時に徹底するとともに、学生が利用しやすいような掲示板の配置等検討していきたい。

3. アクションプランとの関連

【指針Ⅱ：学生支援】2-6-① 障害のある学生に対する個別支援の強化

学業不振の学生、健康面で問題を抱えている学生について、定期科内会議で情報を共有化した。

Ⅱ－２ 進路支援

担当 [飯田・梅本]

1. 現状

(1) 指導の進め方

担任を中心に、学科教員、就職支援センターの協力を得ながら、年間指導計画に基づいて行った。1年次は、1、2月に就職支援センターによる進路ガイダンス、3月には、外部業者による就職試験教養科目対策講座を実施した。2年次は、「進路指導・ホームルーム」(前・後期)を時間割に組み込み、系統的に指導をした。履歴書作成指導、専門科目特別講座、保育士就職模擬試験、先輩と語る会、模擬面接、小論文・作文指導、私立幼稚園教諭適性検査受験対策(面接、ピアノ実技)等を実施した。「ハローワーク富山」職員による模擬面接を踏まえ、個々の学生の応募先に合わせて学科教員が個別に面接指導を行った。作文指導は、「国語表現」担当教員とクラス担任が担当した。また、福祉職場合同説明会への参加及び自主実習を奨励し、応募先を決めていくよう指導した。1月には、実践的社会的力向上事業の一環として「接遇マナー講座」を実施し、4月から就職するに当たって、社会人として必要な接遇の知識と態度を身に付けた。 [資料①]

(2) 求人及び進路内定状況

前年度同様、早期より求人依頼があり、年間を通して絶えることが無かった。今年度の求人件数は、県内は105件、県外は119件で、前年度比は県内9.5%減、県外46.9%増であった。求人のほとんどが、私立保育園である。私立の施設(主に保育園)の採用試験は、公務員(市町村保育士)採用試験との併願が可能であるケースが多く、学生は機会を逃すことなく応募し、早い時期に就職先を確保することができた。公務員採用試験は、延べ48名が受験し、18名が合格した。富山県私立幼稚園教諭適性検査は5名が受験し、全員が採用された。 [資料②③]

(3) 公務員試験対策

①教養科目対策講座を受ける ②自分の就職したい市町村を決める(可能ならば複数) ③勉強スタイルの確立と参考書・問題集の選定 を早い時期から行うよう指導した。1次試験合格後は、エントリーシートの作成を担当と学科長で行った。エントリーシートの内容が面接につながることを意識して、話し合いながら丁寧に作成指導を行った。面接練習は担任がまず行ったうえでさらに複数の教員から受けられるようにするが、個々の学生の状態に合わせて臨機応変に対応した。

2. 課題

(1) 求人への対応

保育者確保のため、本年度も求人活動が活発に行われた。求人条件は多様であり、学生の受験先にかなりばらつきが見られた。県内のすべての園と良い関係を保つためにも、学生に対する求人情報提供を徹底させると同時に、必要に応じて求人先に対して連絡を取り、希望者の有無や地域別の内定状況をすみやかに報告するなど、誠意ある対応が必要である。

(2) 公務員採用試験対策

今年度は53名の学生が教養科目対策講座を受講したが、この中には公務員採用試験合格者18名の内17名が含まれている。また、保育士就職模擬試験は39名が受験、そのうち16名が公務員採用試験に合格している。公務員保育士を目指す学生には、必ずこのような講座や模擬試験を受けるよう指導することが望ましい。

(3) 内定後の学生指導

就職内定者に対しては、就職先が決まっても気を抜かず、その後の授業、実習、卒業研究などに真摯に取り組むよう指導してきたが、一部の学生には気の緩みが見られた。今年度は初めて「接遇マナー講座」を実施したが、内定後も見通した就職支援計画が必要である。

3. アクションプランとの関連

【指針Ⅱ：学生支援】

1-(1)-① 就職先訪問を継続して実施した。その際に得た情報を就職指導に活かしていくことが必要である。

1-(3)-① 公務員試験指導を充実させ、面接・作文など集団での指導を強化した。

富山短期大学幼児教育学科5年間の就職状況

[資料②]

卒業年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
就職希望者／卒業生		89 / 92	90 / 92	84 / 87	85 / 88	83 / 83
専 門 職	幼稚園	13	15	8	12	4
	保育所	64	67	74	67	56
	幼保連携型認定こども園					20
	福祉施設等	8	5	2	4	2
	小計	85	87	84	83	82
	専門職就職率	95.5%	96.7%	100%	96.5%	99%
専門職関連		1	2	0	0	0
一般職		3	1	0	3	1
進学		1	0	1	1	0
家事		2	2	2	1	0
総計		92	92	87	88	83

Ⅲ-1 ボランティア・地域活動

担当 [飯田]

1. 現状

(1) ボランティア手帳における幼児教育学科学生参加状況

ボランティア参加数

2016.2/29 現在 () は平成 26 年度数

学年	全学生数	参加率	参加人数	延人数	レポート数
1 年	108 (83)	60.2% (67.5)	65 (56)	97(125)	1.5 (2.2)
2 年	83 (88)	53.0% (25.0)	44 (22)	68 (26)	1.5 (1.2)
全学科学生	692(695)	47.7% (40.3)	325 (259)	656 (564)	2.0 (2.2)

月別参加人数

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
1 年	0	0	7	31	14	3	33	2	4	2	2
2 年	22	10	10	6	8	0	3	5	3	0	0
計	22	10	17	37	22	3	36	7	7	2	2

例年 7 月～10 月に行われる、みどり野幼稚園主催行事は参加者数が多い。今年度は 1 年生 2 名、2 年生 1 名を全学のボランティア活動賞に推薦した。

(2) イベント参加 学科に直接依頼された活動にも多数の学生が参加した。

- ・ 9 月 絵本ランド出演（遊びうた、読み聞かせ等）ファボーレ富山店
- ・ 12 月 クリスマスこども大会出演（遊びうた、器楽演奏等）オーバードホール
- ・ 2 月 うれしい 1 年生のつどい出演（オペレッタ）富山県教育文化会館、高岡市民会館
- ・ 3 月 新入園児のつどい出演（手遊び、遊びうた等）富山県教育文化会館

2. 課題

(1) 活動参加推進

「ボランティアスポーツ」の活用は、十分ではなく、学生が意欲的に参加した活動は「幼児と保護者・小学生・障害者」と触れ合う企画が中心であった。学科での学びを生かしたり、確認したりできることが参加意欲に繋がっている。また、ボランティア手帳のシステムは、全体オリエンテーション時の説明では理解ができていない学生も多い。学生部と連携しながら、学科オリエンテーションや HR 等を活用して手続きの確認や学びと関係がある活動をピックアップし紹介し参加意欲を喚起する必要がある。また、子育てセミナーや障害者参加行事への参加などは、子どもの教育や保育にかかわる進路を選択していく上で、自らの人間的成長が期待できること、就職試験の「履歴書」や「面接・小論文」等で活動実績や経験談が大いに生かせることを学生に伝え、ボランティアに対する関心を高めたい。

(2) 地域活動の充実と拡大

地域に働きかける自主的な活動を「授業」の一環として取り組んだことで、地域活動に発展させるきっかけとなる活動となった。このような取り組みを積み重ねることで、学科での学びを生かして地域活動への充実・拡大に繋がっていききたい。

3. アクションプランとの関連

【指針3：地域貢献活動】1－(2)－②

学生部への提案を来ない、ボランティア手帳システムのオリエンテーションを改善することとした。

【指針3：地域貢献活動】1－(2)－③

ボランティア委員やサークルの結成については進展がなかった。

【指針3：地域貢献活動】1－(2)－④

ラーニングスタジオを活用し、親子活動の実施の他、新入園児の集いやオペレッタの練習といった社会活動に向けた準備の場とした。(再掲)

Ⅲ-2 幼児教育センター活動

担当 [宮田・石動・梅本]

1. 現状

(1) 研究及び広報部門

①第43回幼児教育研究会の開催

日時：平成27年6月20日(土) 9:30-15:30

共催：富山国際大学（子ども育成学部）

主題：保育内容を見つめ直すー保育内容を支える保育者の専門性ー

参加者：330名(内訳：一般127名、招待者5名、本学科学生188名、教職員10名)

②機関誌「越の子」の発行

No.70号 2015.5.25発行(A4版 6ページ) 1,100部

[内容] 特別寄稿「心を鍛え心を洗う」、新任のごあいさつ、

新任教員紹介、退任にあたって 他

No.71号 2015.9.29発行(A4版 16ページ) 1,300部

[内容] 第43回幼児教育研究会記録集

(2) 研究活動の把握と資料収集部門

幼児教育センターの予算で購入した図書資料及び設置場所は次のとおりである。

①日本保育学会論文集(E-206 学科事務室) ②美育文化ポケット(5階ラウンジ)

③チャイルドヘルス(5階ラウンジ)

④プリプリ(5階ラウンジ)

⑤あそびと環境0・1・2歳(5階ラウンジ) ⑥新幼児と保育(5階ラウンジ)

(3) 保育実践助言指導部門

県・市、県・市保育士会等関係団体、保育所等での研修会・公開保育・実践研究等における研修講師、助言指導等については、23件あった。

(「Ⅲ-2 研究・社会的活動・所属団体研修等」の項目を再掲)

黒部市公開保育研究会助言者	平成25年6月～平成27年10月
富山県公開保育研究会講演講師	平成27年10月
朝日町保育研究助言者(富山県保育士会委託研究)	平成26年～
朝日町保育士会研修会講演講師	平成27年10月
射水おおぞら保育園園内研修講師(毎月1回)	平成23年5月～平成28年3月
射水市保育士会総会講演講師	平成27年5月
射水市保育士会研究部会講師	平成27年6月・11月
乳児保育研修会(福祉カレッジ)講師	平成27年6月
中堅保育士研究会講師(福祉カレッジ)	平成27年7月
富山市乳児保育研修会	平成27年8月
第27回富山県保育研究大会 第2分科会助言者	平成27年10月
海老江保育園園内研修会講師(毎月1回)	平成27年5月～平成28年3月
射水市保育研究部会 講師	平成27年6月～11月(計6回)
砺波市教育センター 幼児教育研修会(楽器)講師	平成27年7月
魚津市保育研究会実技研修講師	平成27年8月
新湊中部保育園園内研修会講師(毎月1回)	平成25年7月～
若葉保育園園内研修会講師(毎月1回)	平成26年12月～

黒部市保育士会公開保育研究会講師	平成25年7月～
小矢部市保育士会公開保育講師	平成26年8月～
高岡市保育研究会講師	平成27年10月
富山県公開保育研究会講師	平成27年10月
射水市保育士会保育研究部会講師	平成27年6月～
小矢部市保育士会保育士研修会講師	平成28年1月

2. 課題

平成27年度第43回研究会をもって、平成22年度第39回研究からスタートした研究主題「保育内容を見つめ直す」に基づく一連の研究は終了した。平成28年度第44回以降のテーマ及び内容については、子ども・子育て支援新制度の実施など保育をめぐる状況が急激に変化する中、時機に即応したものとすることが求められ、継続的な研究主題の設定が妥当か見直す必要がある。

今後とも、地域課題と密接につながった研究や社会貢献の取組をより一層充実させることが求められる。

3. アクションプランとの関連

【指針3：地域貢献】2-(6)-③幼児教育研究会のテーマ・内容を検討

(【指針1：教育】3-(9)-①再掲)

「2. 課題」に述べたとおり、参加者アンケート調査に基づき、現代的な課題を新たに設定することとした。また、研究会の内容構成についても見直し、平成28年度の研究会を実施することとした。